

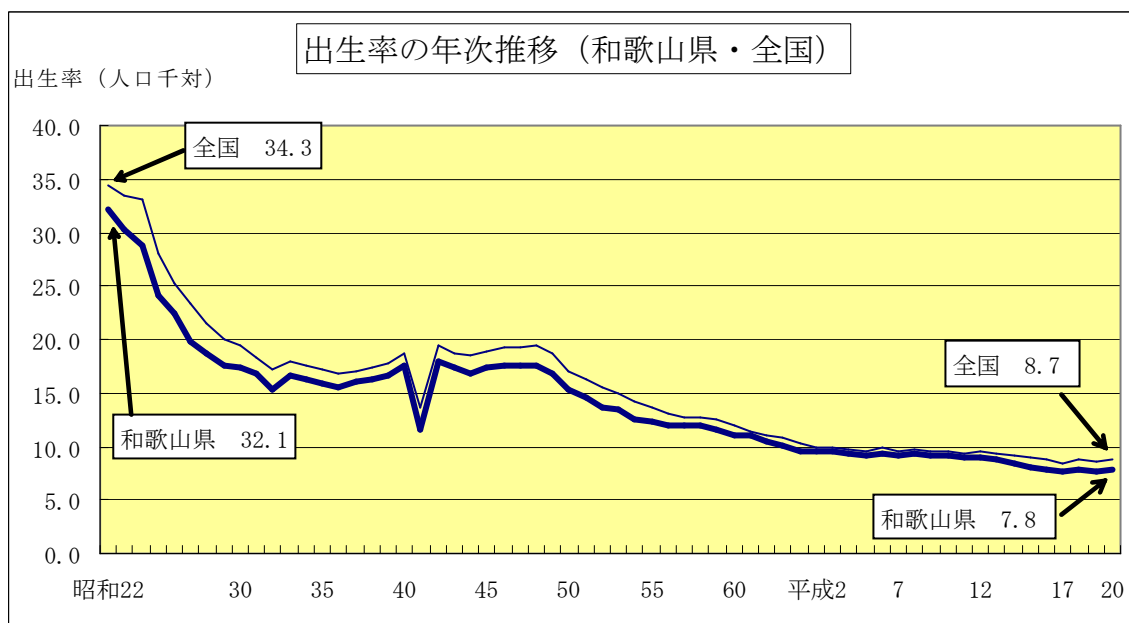
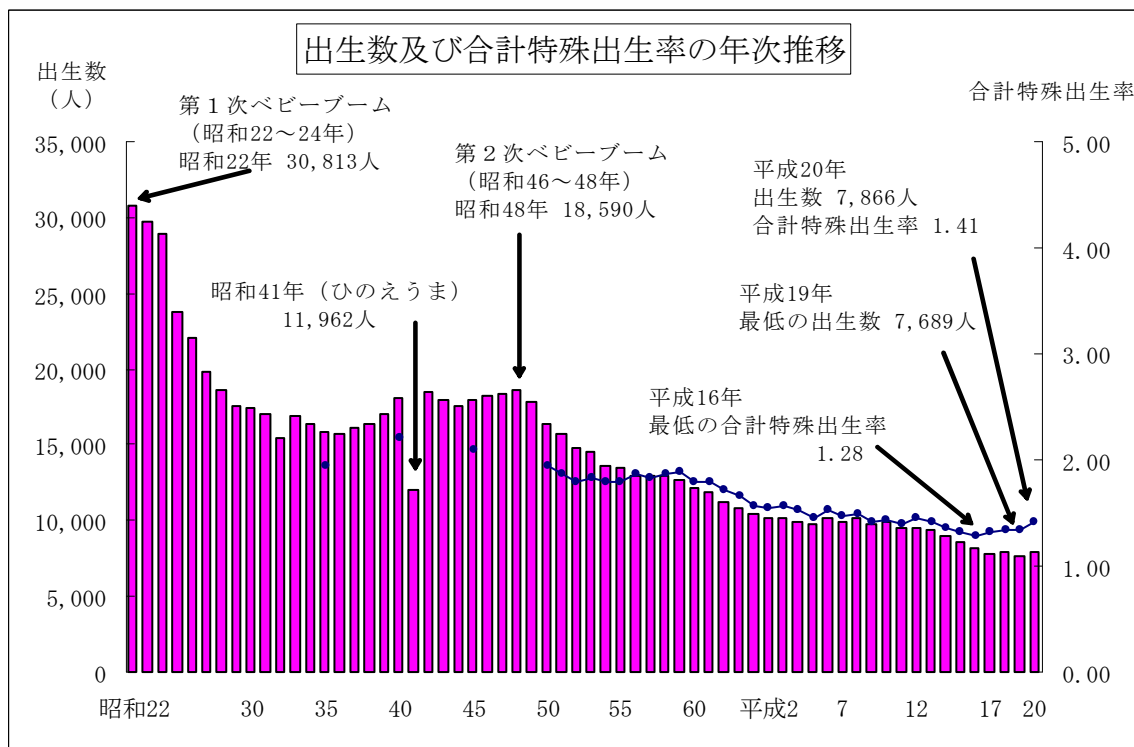
Ⅲ．結果の概要

1 出生

平成20年の出生数は7,866人で、前年の7,689人よりも177人増加した。

出生率（人口千対）は7.8で前年の7.6を上回った。また、合計特殊出生率は1.41で、前年の1.34を上回った。

出生数は、昭和50年以降減少傾向が続き、平成19年は最低の出生数であったが、平成20年は増加に転じた。



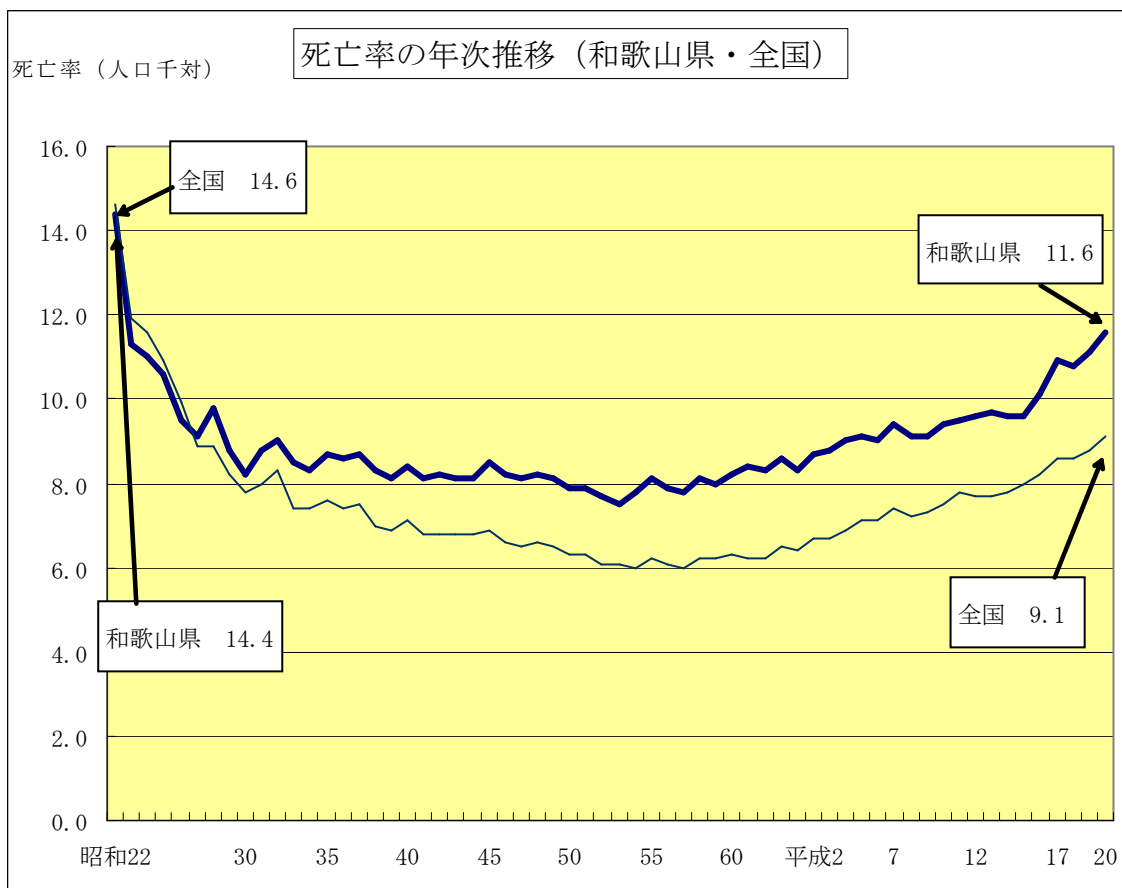
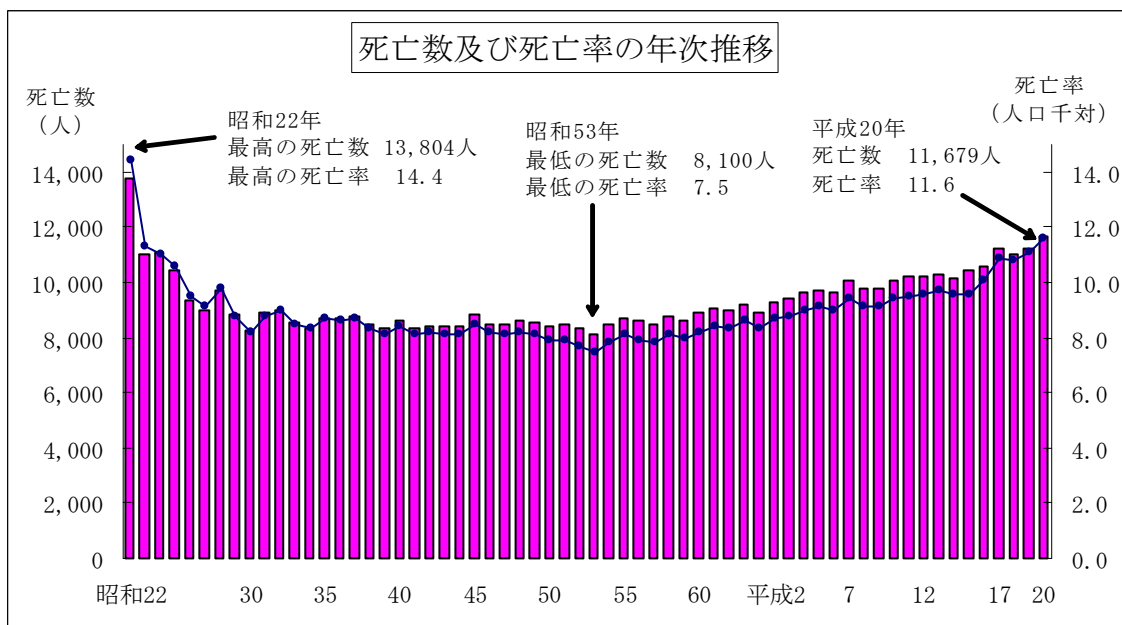
2 死亡

(1) 総死亡

平成20年の死亡数は11,679人で、前年の11,256人より423人増加した。

死亡率（人口千対）は11.6で前年の11.1を上回った。

昭和26年以降は8,000人前後で推移していたが、平成7年及び平成9年以降は1万人以上となり上昇傾向にある。



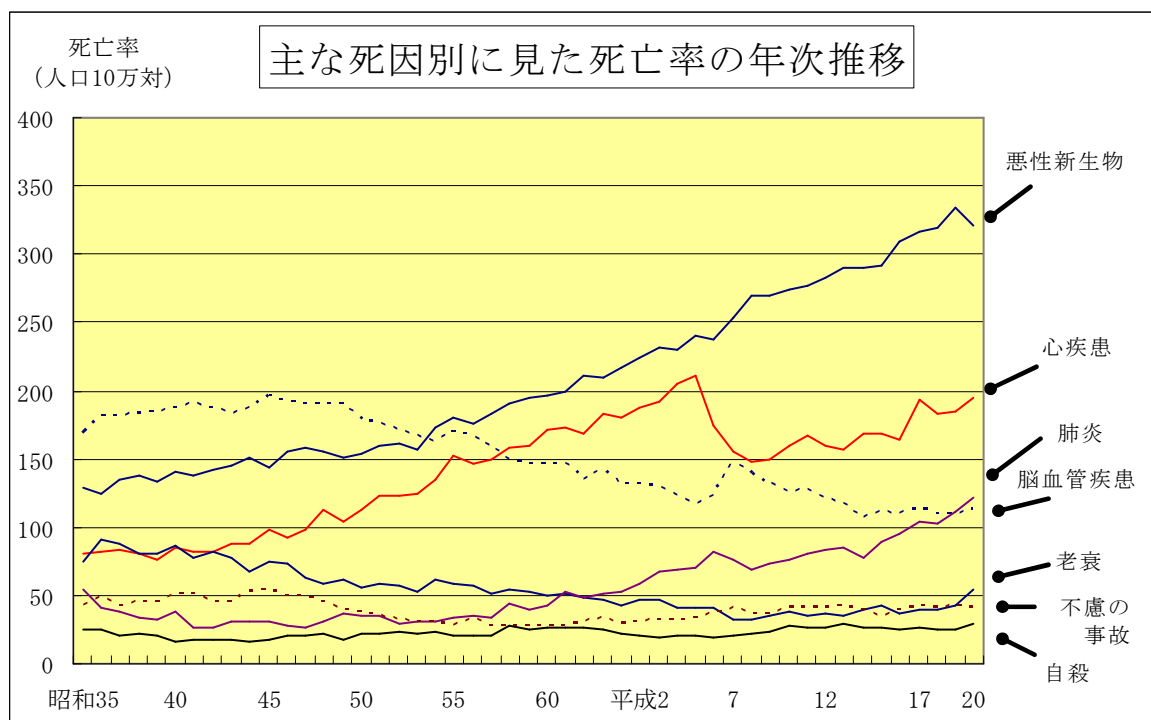
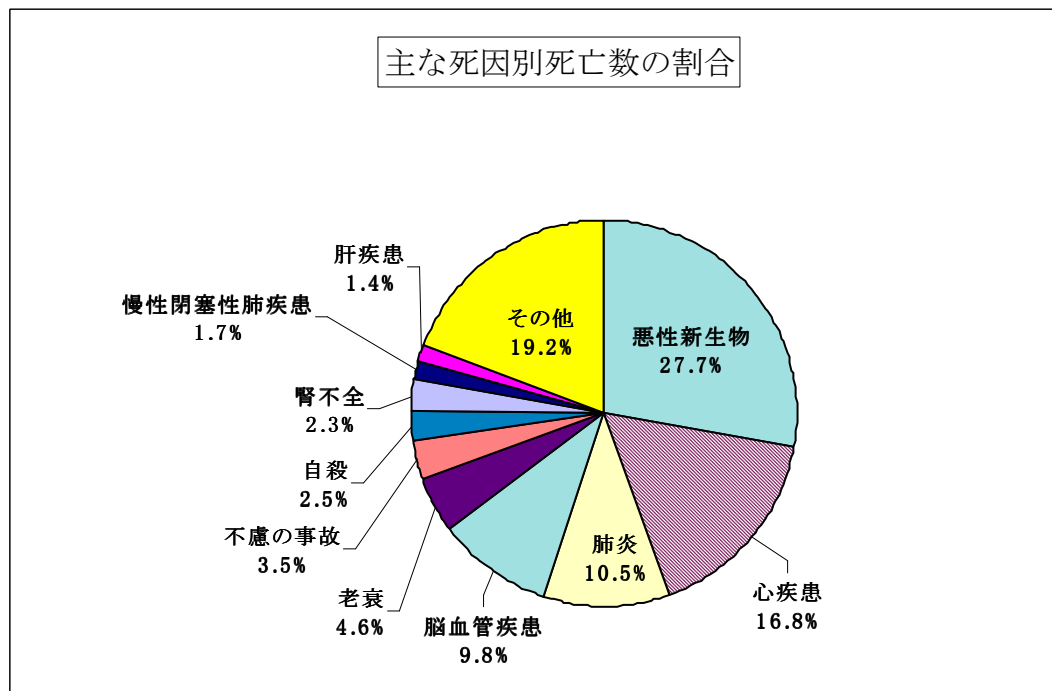
(2) 死因別死亡

死因別に見ると、死因順位の第1位は悪性新生物、第2位は心疾患、第3位は肺炎であり、全死亡者に占める割合は、それぞれ27.7%、16.8%、10.5%となっている。

主な死因の年次推移を見ると、悪性新生物は上昇傾向から減少に転じたが、昭和54年以降は第1位である。

心疾患は昭和58年に脳血管疾患に変わって第2位となり、増減はあるものの死亡数・死亡率とも上昇傾向にある。

肺炎は平成18年まで第4位であったが、平成19年は脳血管疾患にかわって第3位となった。

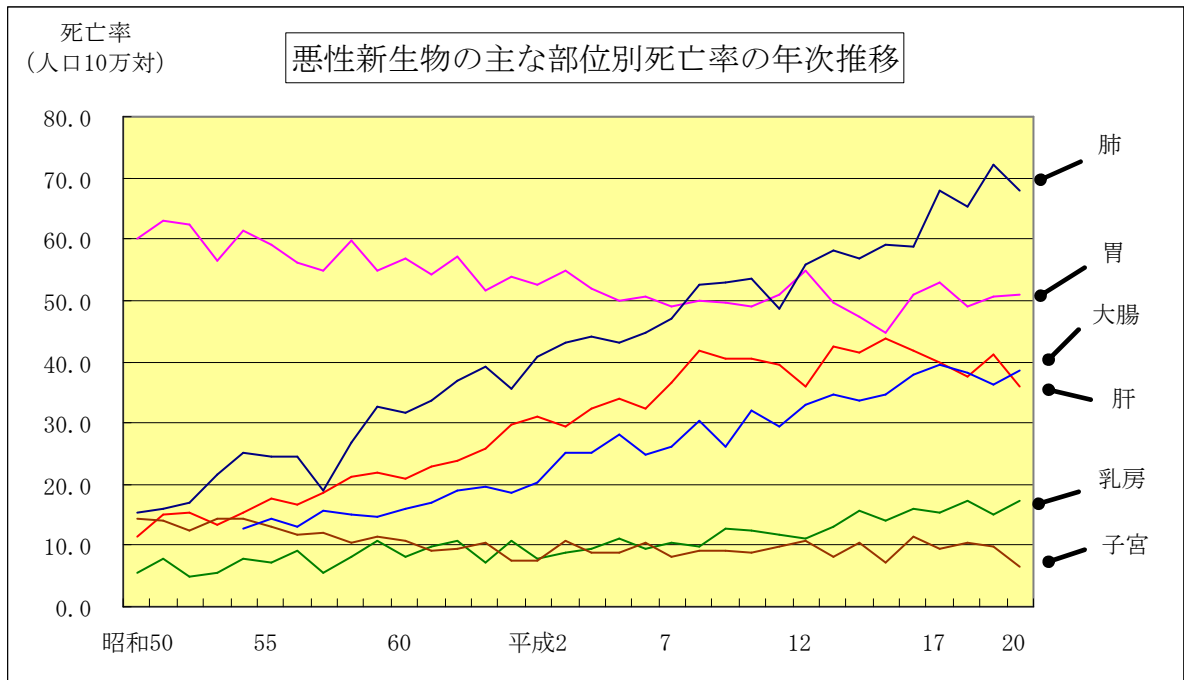


(3) 部位別に見た悪性新生物

悪性新生物での死亡者は3,234人であり、前年の3,384人よりも150人減少した。

死亡数を部位別に見ると、1位「肺」2位「胃」3位「大腸」となっている。

「肺」は平成8年にはじめて「胃」を上回り、平成11年を除き1位となっている。



注) ①「大腸」は昭和54年からの分類である

②「乳房」「子宮」は女子10万人対の死亡率である

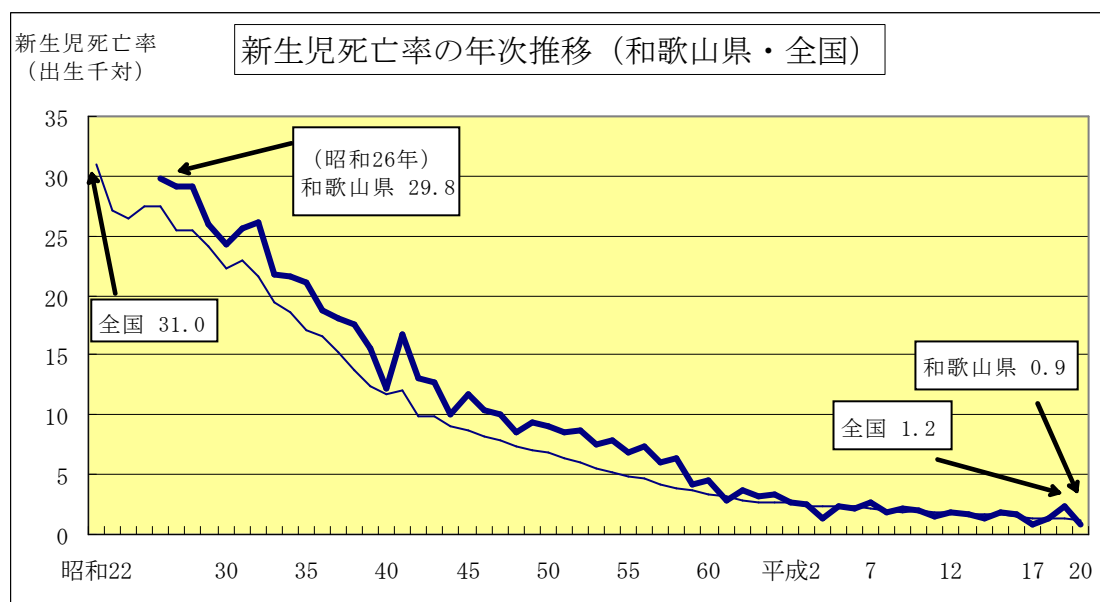
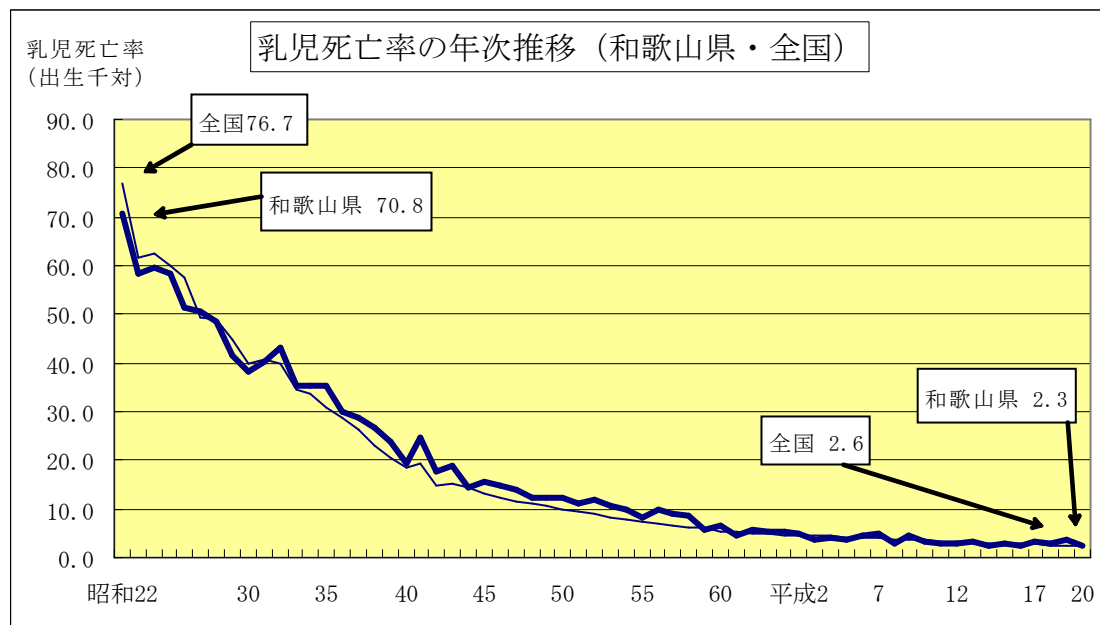
(4) 乳児死亡、新生児死亡

平成20年の乳児死亡数は18人で、前年の27人より9人減少した。

乳児死亡率（出生千対）は2.3で、前年の3.5を下回った。

また、平成20年の新生児死亡は7人で、前年の18人より11人減少した。

新生児死亡率（出生千対）は0.9で、前年の2.3を下回った。



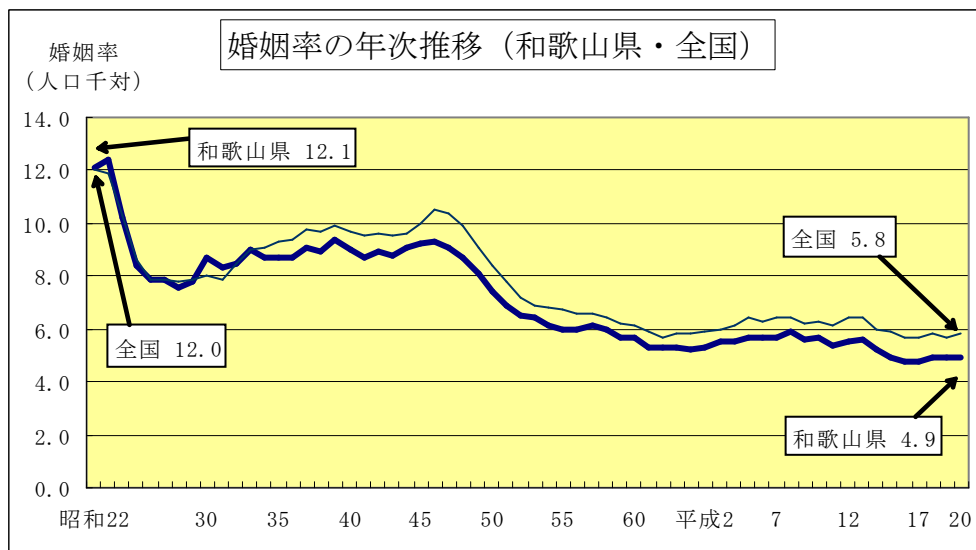
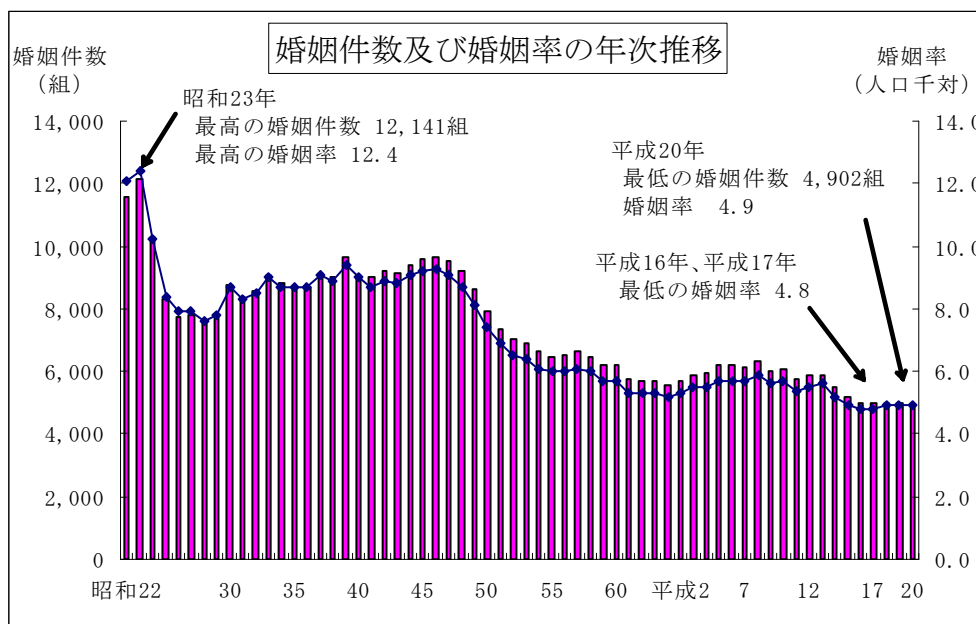
3 婚姻

平成20年の婚姻件数は4,902組で、前年の4,961組より59組減少した。

婚姻率（人口千対）は4.9で、前年と同率であった。

婚姻件数は、昭和23年以降、急激に減少し、昭和30年から40年代前半は9,000組前後で推移していたが、昭和46年以降は再び減少傾向となった。平成元年からは緩やかな増減を繰り返しているが、平成20年は最低の婚姻件数となった。

平成20年の平均初婚年齢は、夫29.5歳、妻27.7歳で、前年と比べると夫は0.2歳上昇し、妻は同じであった。

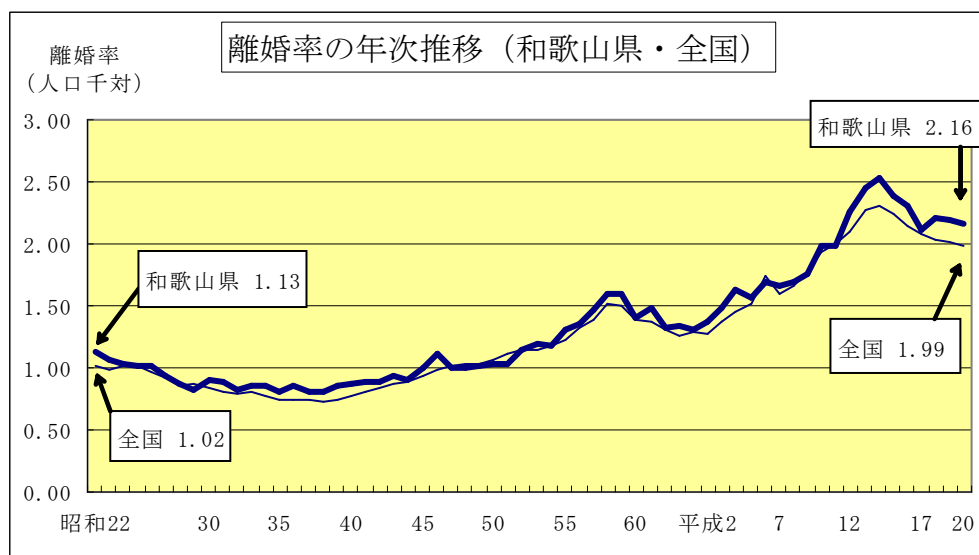
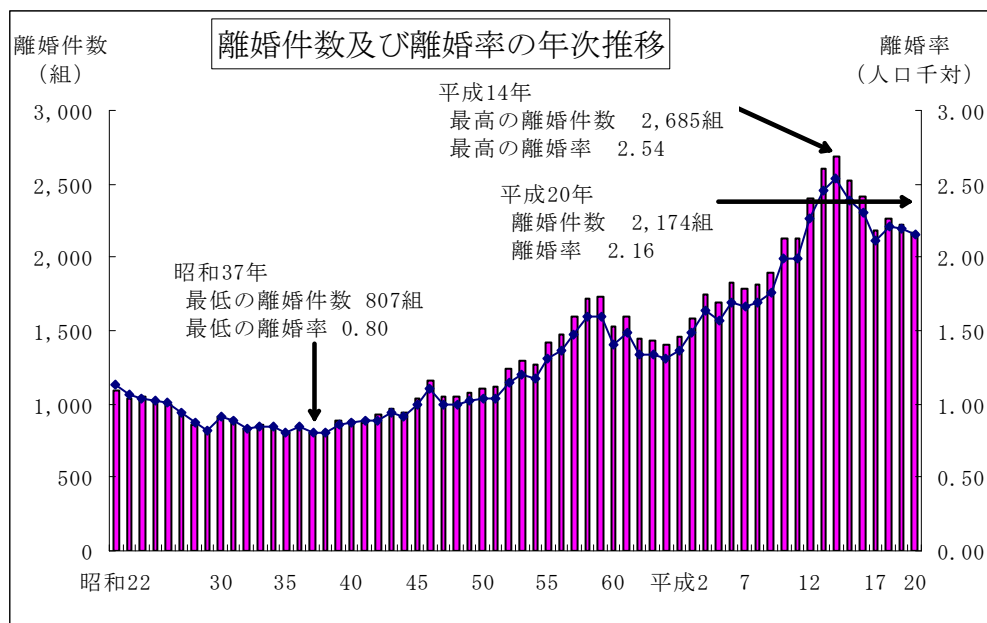


4 離婚

平成20年の離婚件数は2,174組で、前年の2,229組より55組減少した。

離婚率（人口千対）は2.16で前年の2.20を下回った。

離婚件数は昭和37年以降増加を続けていたが、平成14年をピークに減少傾向に転じている。



IV 統計表